

基調講演「公正としての良さ」

マイアミ大学教育・人間発達学部学部長（当時）
アイザック・プリレルテンスキー

正義・公正さと主観的な良好状態

『公正としての良さ』、『WELLNESS AS FAIRNESS』というタイトルでお話をいたします。まず、最初にある直感をずっと長年感じてきましたので、それを皆さんと共有したいと思います。つまり、正義と公正さというのは、良好な状態にも関連しているはずだというふうに直感的に感じるわけです。

そして、私のこの直感的な感じ方というのは、事実を見てみますと、しながら心理学者で主観的な良好状態の研究をしている多くが同じようなことを考えていない、そういった研究をしていないのです。どうも私は少数派のようであって、正義、公正さと良好状態をつなげようとしているのは少数派のようであります。

哲学においては、ノーベル賞を受賞したアマルティア・セン教授は経済学者ですが、彼が数年前に重要な本、『正義のアイデア』という本を出しています。この中でセン教授は、このような質問を提起しています。ある人の良好状態（ウェルビーイング）を判断する上で幸福という観点は、どれだけ適切であるのかというものです。これは大変重要な質問だと思います。幸福、すなわち良好状態であってその全てなのか、それとも幸福というのは良好状態の一部にすぎないのかということです。

アマルティア・セン教授によりますと、良さにおける幸福の重要さを過小評価することがある。幸福が、いかに重要な役割を良さにおいて果たしているのかということを過小評価してしまうこともあれば、過大評価してしまうこともある。そして、また幸福であることの限界を無視することがあるというふうに

指摘しています。従って、幸福の正しい位置付けは何か。良好状態や良さにおいて幸福の正しい位置付けは何かということを考える必要があります。

私が考えますに心理学というのは、二つの誤りを犯しやすいのです。まず、第一に良好状態における幸福の重要性を過大評価する、つまり、幸福が良好状態において、実際、そうであるよりも重要であると過大評価してしまいがちであるという一つ目の誤り。もう一つが、良好状態における正義の重要性を過小評価する誤りを犯しやすいということです。そこで正しく幸福を捉え、公正さを捉え、ある人の良好状態における幸福と公正さの重要性を正しく捉えてみたいと思います。

幸福さの過大評価

心理学者は、幸福における正義の役割を無視している。あるいは、心理学者の中には、幸福を良好状態において、過大評価している。こう申し上げましたけれども、それには理由があります。

例えば2002年のセリグマン教授の『本当の幸福』という本におきますと、幸福、それから人生の満足、生きることへの満足については、わざわざ次のようなことをしなくても幸福になれる、つまり「お金をもっと得る、健康である、あるいは高い教育を受ける、そういったことをしなくても、満足、あるいは幸福を感じることができる」と言っています。この場合には、幸福さの重要性というのを過大評価していると思います。

世界各国で、さまざまな研究調査が行われていまして、その結果、分かったのは、社会階級が違う人々であっても、同じような水準の幸福さを感じていると報告しているということです。

だからといって、「お金がなくてもいい、健康を心配しなくてもいい」とは言えないと思います。これは飛躍した考え方だと思います。一つの手段、一つの調査だけに基づいて、「背景が異なる人々が同じ幸福水準だ」と言っているという、その一つの調査だけに基づいているからです。こういった争点について、私は異議を唱えてみたいと思います。セリグマン教授の主張に異議を唱えてみた

図 1¹

Income Matters for Well-Being

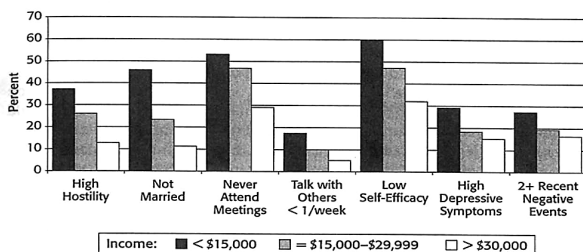


Figure 3.5. Psychosocial Risk Factors by Income for Persons Aged Forty-Five to Sixty-Four in the United States.

Source: House and Williams, 1995.

UNIVERSITY OF MARY
SCHOOL OF
EDUCATION

出典) 以下すべて、当日のプレゼンテーション資料から

いと思います。

それから、またもう 1 人、ポジティブ心理学者、ソニア・リュボミアスキーの主張に対しても異議を唱えてみたいと思います。リュボミアスキー教授は、大変、よいリサーチを行っていますけれども、私が見たところ、少し過大評価をしているところがあると思います。このように言っているのです。「大体、幸福の 50 パーセントは遺伝によって決まっている。そして、個人的な動機付けによって、40 パーセント決まっている。そして、社会的な境遇によるものは、10 パーセントにすぎない」と言っています。

しかし他のデータを見てみますと、幸福、それから良好状態というのは、それが社会的な境遇に左右されるというのは、わずか 10 パーセントにすぎないということではないという結果が示されています。

例えば、数多くなされたリサーチの一つは、所得が良好状態に大きな影響を及ぼしているということを示しています。これは、アメリカベースの調査です(図 1)。所得として、3 万ドル以上の所得がある人々は、心理学的な問題の経

験が少ない。より貧しい人に比べて、心理学的な問題が少ない。よりお金がある人は、ストレスを感じるような経験が少ないし、孤立感もあまり感じない。それからうつであることも少ない。そして、全体的な、総合的な経験として、心理学的に、総合的に良好な状態を経験しているということです。

これはアメリカの集団を対象とした調査ですけれども、私たちのチームの調査によっても所得が高いと総合的な良好状態も心理学的な良好状態も、より高くなるということが分かっています。従って、私たちのリサーチでは、所得の多さというのは、プラスの違いをもたらしているということです。

それから、また既存のリサーチがあって、私たちもそれは同感するところですが、教育も良好状態に影響するということです。教育水準が高い人のほうが、うつに感じるものが少ない。また人生において、マイナスの経験が少ない。そして、また攻撃的な行動を取ることが少ない。そういう調査結果になっています。攻撃的な行動とか、自己効力感とか、孤立感とか、マイナスの経験については、教育をよく受けているほうが、メンタルヘルスは良好な状態であるということが示されています。また私たちのリサーチで、より高い教育を受けていると身体的にも経済的にも良好状態がよりよくなるという結果になっています。

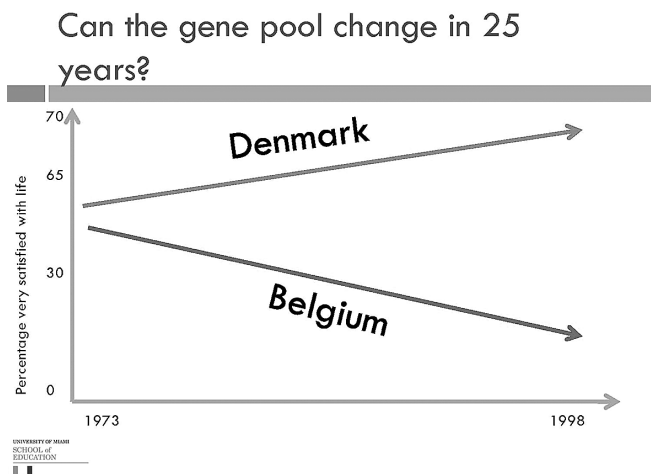
社会的環境と幸福さ

セリグマン教授、それからリュボミアスキー教授の主張は、それではどうなってしまうのでしょうか。あまりにも一般化し過ぎているように思われます。一つの質問、一つの調査に基づいて、一般化し過ぎていると思います。人生における満足であるとか、幸福の尺度を使った調査なのですから、これらについては、もっと人々の良好状態の経験について深く見ていけば、本当は複雑

¹ グラフの出典は以下のものである。

House, James S., and David R. Williams. 1995, 'Psychosocial pathways linking SES and CVD,' in "Report on the conference on socioeconomic status and cardiovascular health and disease, 119-24. Bethesda, Md.: National Heart, Lung, and Blood Institute. NIH.

図2



なのだということが分かってくると思います。

例えば、ここで見ているのは、良好状態と、それから人生に対する満足度、デンマークへの1973年から1998年の状況です。デンマークでは、常にそれが改善しています。良好状態が改善しているのです。それは社会的な条件、そして経済的な条件が、デンマークにおいては一貫して改善を示していたからです(図2)。

ところが、デンマークと違って、ベルギーでは、同じ期間、生活に対する満足度が下がっています。それは、社会的な条件に基づいています。民族間の対立があるというような社会的な状況です。この間、ご記憶かもしれませんが、ベルギーでは国内で民族間の対立、さまざまなものがありました。それが劇的に反映されています。

基本的にここでの問題は、25年間で遺伝子の構成が変わるのか、です。変わるということは全くない。従って、社会的な条件が変わっている。それに従って、人々がより幸福に感じている。あるいは、幸福でなく感じているに違いがないということです。

ロシアで、それがさらに劇的な形で示されています。1981年から1995年までの間、幸福であると回答した人々への比率が劇的に下がっています。少し歴史を振り返ってみますとソ連が1989年に崩壊をした。そして、ロシアは、ソ連時代からそれほど素晴らしい場所ではなかったかもしれないけれども、旧ソ連の崩壊によって、さらに環境が悪化した。食べ物不足である長い行列が店にできていたというようなことをご記憶かもしれません。食費もなければ、基本的なサービスも欠けているという状況でした。

ですから、社会的な環境、社会的な条件というのは、良好状態に大きな影響を及ぼすわけです。ウオッカのために遺伝子の構成が変わったのか。そんなことはないと思います。ここで申し上げているのは、社会的な条件、社会的な環境というのが良好状態に大きな影響を及ぼすということ、大きな役割を果たしているということです。

それでは、セリグマン教授、リュボミアスキー教授の主張を少し修正してみても、社会的な条件が、幸福さ、それから良好状態にどう影響を及ぼすのかというふうに質問を変えてみて、取り上げてみたいと思います。

こちらはアメリカの調査ですけれども、学校における課外活動にどのぐらい参加しているのか、階級格差が広がっているということを示しています。社会階級が、子どもの教育チャンスに大きな影響を及ぼしているということです。教育水準が高い人々は、課外活動も多く行っているということが、ここに示されています。そして、貧富の格差が、アメリカでは拡大している。教育に基づいて貧富の格差が拡大している。それも一つの理由になっているということが示されています。他の国でも、所得が高い、あるいは教育水準が高いと、よりよい良好状態につながっているという経過が示されています。

良好状態における公正さの役割

そういったバックグラウンドに基づいて、この社会的な条件は、どういう役割を果たしているのかという問題を取り上げてみたいと思いますが、二つの目標を掲げたいと思います。まず良好状態における公正の役割を複数の次元で見

てみたいと思います。というのも、こういった社会階級、そして社会的な条件などのお話をこれまでしてきましたけれども、これは天から与えられたものではない。あらかじめ運命で定められている、自然に定められているというものではなくて、人間がつくりだした社会的な条件である。従って、それは変えることもできるし、改善することもできるからです。ですから、公正についてよりよくしていくことによって良好状態もよりよくしていくことができる。それが本日の私のメインの主張です。

そこで公正さと良好状態の関係を説明するために、良好状態と正義の仲介をする、その両方をつなげる心理支配的なプロセスをご説明したいと思います。これが、今日の講演の二つの目的です。

良好状態

まず良好状態について、お話ししたいと思います。私の考えでは、良好な状態というのは、幸福より大きいと考えています。幸福は、どういうときに構成されるかというと、良好状態のヘドニックな状態であると見ております。ヘドニズム、これは快樂のことです。そして、楽しみを追求するということで、これも良好状態の重要な一部ですが、その一部でしかありません。良好状態の全てではありません。英国の心理学者で、経済学者であるポール・ドラン（Paul Dolan）という人がいます。その人によると「良好状態というのは快樂と目的から構成されている」と言っています。快樂はヘドニックな幸福です。目的はエウダイモニックな良好状態です。これは、アリストテレスの概念に基づいたものです。

ですから、私の考えでは、バランスが大事です。ヘドニックとエウダイモニックな良好状態とのバランスを取ることが大事です。また大事なのは、良好状態というのは、個人の中だけにあるものではないということです。そこで皆さまに質問します。例えば「皆さまの良好状態のレベルを報告して欲しい」と言うかもしれません。そうすると「自分は、多少とも心理的な良好状態に満足している。職業の良好状態に満足している」と、言うかもしれません。

そして、良好状態のモデルを六つの次元からつくりました。それが個人間、コミュニティ、職業、肉体、心理と経済です。そして、私たちは、そのスケール、アイコープスケールというものを作りました。これは、今、イタリアやトルコでも使われています。小林先生の努力により、日本にもこれを導入しようとされておられます。ですから、個人の良好状態というのは、複数の次元があるということを理解することが大事です。1次元だけではありません。ですから、私の研究チームは、複数の次元からなる良好状態の見方を作ろうとしております。なぜなら、人間は複雑だからです。

そして、個人間の良好状態はいいかもしれないけれど、職業の良好状態はよくないかもしれない、また社会で職場のストレスが非常に深刻な場合は、全体の人生の満足度が低くなる可能性があります。これは、日本の社会で起こっているかもしれない私が思っている仮説です。なぜなら、皆さん、大変、一生懸命、働いています。本当に長時間、労働しています。そして、仕事から離れることができません。ですから、職業の良好状態は低いかもしれません。そうすると全体の良好状態が下がります。

例えば多くの日本人は、肉体的な良好状態はいいと報告していますが、
「職業上の良好状態は低い」と言っています。そうすると、身体的な、肉体的な良好状態がいいにもかかわらず全体の良好状態のスコアが下がってしまいます。それが日本の状態ではないかと見ております。

日本のスコアは、良好状態の客観的な要素ではいいスコアを取っております。例えば教育水準、医療、経済の繁栄、福祉政策などです。日本は、これらの点数は高いのですが、人生の満足度のスコアは、それほど高くありません。ですから、なぜこのような差があるのかということを理解する必要があります。この差は、私の考えでは、特定の良好状態の分野にあるのではないかと考えております。ですから、幸せなのか、不幸なのかという単純な質問ではわかりません。こういったユニークな、特定の良好状態の分野に注目する必要があります。

今、申し上げたことは、全て個人の良好状態です。私が皆さまにさまざまな自分の存在の側面で、人生にどのように満足していますかと質問をします。し

図 3

**Model of Well-Being:
Some positive and negative factors**



	Sites of Well-Being				
	Individual	Relational	Organizational	Communal	Environmental
Objective signs	+health -illness	+networks -isolation	+resources - lack of resources	+social capital -lack of trust	+clean air -pollution
Subjective signs	+efficacy -lack of control	+voice -repression	+support -isolation	+belonging -rejection	+safety -fear
Values	+autonomy -lack of power	+caring -neglect	+participation -marginality	+diversity -discrimination	+protection of resources -depletion of resources
Justice	My due/Our due	Your due/Our due	Its due/Our due	Their due/Our due	Nature's due/Our due

かし、個人の良好状態以上のものがあります。

例えば、関係を評価できます。良好状態という意味で。例えば友人同士、あるいは家族の関係を見て、この関係は健全なのか、健全ではないのかということが言えると思います。同じことを職場についても言うことができます。職場の状態は良好なのか、コミュニティーの状態は良好なのか。これは個人外の良好状態の次元です。良好状態には、エコロジカルな考え方が必要です。なぜなら、コミュニティーの文脈が不健全だと繁栄するのは困難だからです。

良好状態の「システム」を考える

そこで良好状態に関しての私の提案は何かといいますと、良好状態のシステムを考えるということです。私の定義は、次のようなものです。物事の状態で個人や関係、あるいは組織、コミュニティー、そして自然環境において、ポジティブな状態であると。それは客観的、そして、主観的なニーズでもたらされたものであるということです。客観的と主観的なニーズについては、またご説明いたします。

そして、これは、さまざまな価値観やさまざまなタイプの公正さに影響されます。これは多次元的な、多層的な定義です。まず個人の良好状態について、お話しいたしました。今度は良好状態のシステムについて話をしているわけです。これが次のチャートで明らかになります(図3)。こちらにご覧のように良好状態のシステムがあります。個人のレベル、関係のレベル、組織のレベル、コミュニティのレベルと環境のレベルがあります。ある人は例えば精神的(スピリチュアル)次元を含めることもあると思いますが、私の考えでは、これは個人のレベルだと思います。このチャートは包括的なシステムだと思います。ある次元を追加したり、削除したいという人もいるかもしれませんが、大体、これらが主な良好状態の分野であると多くの人が思うと思います。

例えば、個人の場合、客観的な良好状態のサインがあります。例えば身体的な健康だと、心臓が健康だと、心臓血管系、あるいは消化器官が健康かもしれない。あるいは客観的に病気があるかもしれない。例えばコレステロールの数値を測定し、呼吸を計測すると身体的な状態を測定する客観的な方法があります。

ただ主観的な良好状態のサインもあります。例えば自己効力感のレベルが高いと言っている人は、メンタルヘルスもいいといいます。これは客観的なサインとは違います。なぜなら、これは主観的な報告だからです。私は自分の人生を自分が管理している。これは主観的な評価です。

そして、マイナスというのは制御が欠如しているということです。つまり、自分の人生を制御できないと感じている人は、メンタルな疾患、心理的な負担が高いと報告しています。つまり、客観的なサインと主観的なサインがあります。主観的なサインは、個人的な知覚です。客観的なのは測定可能なものです。自分は良いと感じるかもしれないけれども、コレステロールレベルが350だとすると、どう感じようと重要ではありません。本当は体は病気だからです。そこで主観的と客観的には、共に注目する必要があります。

また大きな問いがあります。それは効力感を促進する、健康をよくし、そして制御の欠如をなくすには、どうすればいいのかということです。いくつかの価値が、そのためには必要です。価値という原則は、私たちの行動を動かす原

則です。

多くの研究が「個人の良好状態というのは、自律性が高いと向上する」ということを示しています。個人が、自由があって、自分の考えに基づいて行動できる時、これが自律、自由ということです。

自律の逆が、力の欠如です。抑圧されている、人生で抑圧されている、家族で抑圧感を感じる、職場でも抑圧感を感じるというものです。つまり、声を上げることができない、聞いてもらえない、人に見られない、周辺に追いやられて無視されて誰も気にしてくれないというとき、これが自律のアンチテーゼです。

ここで大きな問題があります。公正さは、この中でどういう役割を果たしているのでしょうか。公正さの定義というのは、各人の、何がふさわしいのかということです。マイケル・サンデル教授やオックスフォードのミラー教授が言っていて、公正さの受け入れられている定義です。一人一人にとって、その人が何にふさわしいのか、何に値するのかということです。各自のふさわしいもの、相応のものということです。つまり、自分が値するもの、自分が資格のあるものという意味です。

ここで、一番大事な点に入ってきております。なぜなら、もし私が自律に値するのであれば、私の関係する、私の親、私の上司、配偶者が、私に自律を与えてくれることを期待します。働くときに、全く自律できない場所では、働きたくありません。自律がゼロであれば、大きなメンタルヘルスの問題を抱えることになるでしょう。これがはっきりと伝わっていることを願っていますけれども、はっきり分かるという方、うなずいて示していただければと思います。はい。素晴らしい。ありがとうございます。

そこで正義が、どのように価値観に影響を及ぼすのか、そして価値観が、どのように行動を規定して、そして、自己効力感を高めるか、健康を高めるかということが分かっていたいただけたと思いますので、次のレベルに話を進めていきたいと思います。関係です。

関係性と意志決定への参加

関係においては、バランスを取らなければなりません。自分が権利を持っているものと、それから相手が権利を持っているものとのバランスを取らなければいけない。相手に対して公正でなければなりません。私は自分にとってふさわしいもののみを受け取るべきであるということです。

例えば私が、私の妻との関係において、妻も私もお互いに経済的な資源、家族の家庭内の経済的な資源に平等なアクセスができるようにしなければいけない。何か大きな決定をする場合には、妻も息子も私も全員で決定をしたい。そうでなければ公平でない。1人だけで勝手に決めてしまったら公平ではないのです。

そして、人生において、大きな決定をすることがあります。例えば私の場合には、家族全員でイスラエルからカナダへ、そしてオーストラリアへ、そして、さらにはアメリカへと転々と移ってきました。海を越えて何度も移動したわけです。家族として、そういった決定をしてきました。

多くの人が、その決定に参加をする。意思決定に参加をする。そうすれば、より関係においても公正さがあります。よりお互いに注意を払って、相手に対して注意を払う。そして、それぞれが、より意見を表明するということができれば、公正である。そして、お互いに、より関係が強くなったと感ずることができます。ぜひ、理解していただきたいのは、常にスタートポイントは公正であるということです。公正さからスタートするわけです。公正であるということを尊重するのであれば、お互いの関係において、全員が意思決定に参加する。そして、そうすればプラスのほうが増えて、マイナスが減っていくことになります。

もう一つ例を挙げたいと思います。組織レベルでは、私が、ある組織の社員であった場合、従業員であった場合、参加を求められた場合、自分が参加することによって、支持をされている、サポートされていると感ずることになります。しかし、周辺に追いやられているというふうに感ずると孤立してしまったと感ずることになります。自分の職場が本当に公正な原則に基づいているのであれば、恐らく良好状態を感ずるでしょう。同じことは、他の領域にも当ては

まります。

どのような形で、これがどういう仕組みなのかを分かっていた上で、それでは、人生において私たちが下す意思決定というのは、正義の原則に基づいているのだということについてさらにお話を進めていきたいと思います。

正義のコンテキスト

正義というのは、先ほど、お話ししましたが、それぞれの人にふさわしいものを与えるということ、つまり、正義とは、人々に自分に値するものを与える。一人一人にふさわしいものを与えることというふうに定義されています。

公正さというのは、この正義を実践することと私は捉えています。正義と公正さの違いは何かとよく聞かれるので、このようにお答えしていますが、正義というのは、抽象的な概念である。理論的な考え方であって、それを実践に移さなければなりません。正義を実践するというのは、公正さを持って行動をするということです。

サンデル教授によると、正義とは人々が自分に値するものを与えられること、一人一人、ふさわしいものを与えられることというふうに定義しています。ということで、皆さんに自分に尋ねていただきたいのは、では、どうしたらその一人一人それぞれふさわしいものが分かるのかということです。

例えばもの、財を提供する。あるいはサラリーを払う。奨学金を受け取る。政府からの給付金を受け取る。そういったものをどうやって配分するのでしょうか。それは、その人の功績に基づいてなのか、ニーズに基づいてなのか、資質に基づいてなのか。

ここで私が主張したいのは、そのものを分配する場合に私たちの人生のコンテキストに基づいてでなければならないということです。コンテキストというのは、コンテキストに基づいて、どういう基準を使うのか、どの基準を優先させるのかということを決めていく必要があります。

コンテキストというのは、どういう境遇に置かれているのかということを意味しています。それぞれ私たち社会的に異なった環境で育っています。従って、

ただ一つの原則だけを当てはめる、ただ一つだけの基準を全員に当てはめるということは、するべきではありません。というのも、それぞれ人々の境遇、背景が違っているということを見逃してしまうことになるからです。

不平等な社会という状況においては、ニーズのほうを優先する必要があるでしょう。ある人の功績ですとか、能力よりもニーズを重視する必要があるでしょう。例えば私がとても恵まれた家庭に育ったとします。しかし、友人は非常に貧しい状態で、ものが欠乏している状態で育っているかもしれない。そういった場合に恵まれた家庭に育った私が奨学金を受け取ったら不平等ということになるでしょう。いくら私が、成績がよかったとしてもです。恵まれた家庭に育っているわけなので。

そこで生活のスタートポイントが、私は高く、友人はスタートポイントが低い場合に、プリレルテンスキーがいつも奨学金を受け取るというのは正しくない。プリレルテンスキーのほうが、学校の成績がよかった。ただ、それだけのため奨学金を与えるということを決断してしまうと、人生におけるスタートポイントを見逃することになります。平等というコンテクストを考えると、どういうニーズを人々が抱えているのかということが重視されることになります。成績とか、努力をしたということだけを考えるのではなくて。従って、不平等があるというようなコンテクストであつたら、例えば医療、あるいは福祉のサポート、これもニーズに基づいて提供するべきであるということになります。不平等があるというコンテクストの場合にはです。

しかし、相対的に平等であるというような状況であつたら、つまり、人生のスタートポイントが、大体、同じように恵まれているというスタートポイントであつた場合、そして、あまり格差が大きいということであれば、そういった場合には、報いるにしても、個人の努力に報いるということを行ってよいわけです。人生のスタートポイントが同じような状況であるからです。

その中で私はたまたま恵まれた者であつたかもしれない。でも、友人は、学校で一生懸命、勉強をした。その場合には、その人の努力に対して報いるべきだということになります。というのは、同じようにチャンスを与えられているから

です。チャンスが平等に与えられている場合に、皆、同じチャンスを与えられてスタートをするのであれば、そういった場合には、人々を報いるに際して、努力に基づいて、あるいは知能であるとか、能力に基づいて報いるということは正当化されるのです。誰もが豊富にチャンスを与えられているという場合には、能力、そして、努力というのが優先されるべきということになるでしょう。

何を申し上げたいのかと、国によっては、あるいはコミュニティによっては、コンテクストを無視している所があります。コンテクストを重視しない国、コミュニティがあります。従って、不公平なやり方になってしまっている。私が恵まれた生活を最初から送っていた。しかし、他の人は、同じように恵まれた境遇にはなかったというようなことを無視しているからです。

もし、境遇に大きな格差があった場合に、恵まれている、恵まれていないの格差が大きかった場合には、ニーズに基づいてリソースの配分を決定するべきなのです。しかし、ある程度、平等であるのであれば、全く問題ない。お金をあげる、あるいは報いる、あるいは奨学金を与える、その場合に、より優れた人に対して奨学金などを与えるということは正当化できるでしょう。

アメリカでは、ドグマ的な考え方があって、その人の真価 (desert) に基づいて、あるいは努力に基づいて、それだけを基準とするべきだというような、かたくなとも言える考え方があります。しかし、それは正当なポリシーではない。何がどういった境遇であるのか、どういうコンテクストであるのかにはかわらず、とにかくその人の努力だけ、あるいは功績だけ、あるいは真価だけを問うということであれば、それはドグマチックな考え方です。

分配的正義と手続き的正義

それでは、次に公正さにおける最も重要な二つの考え方を取り上げたいと思います。分配的正義、それから手続き的正義です。分配的正義というのは、正義とは何か、What の部分です。What というのは、結果、アウトカムです。例えばパイの中のどのくらいの一切れを受け取るのかということです。家族の月収が10万円だったとしましょう。家賃を払った後、そして、いろいろな生活

費を払った後、どのくらいのお金が残って、どのくらいお金を使うのか。父親がお金をお酒に費やしてしまうのか。あるいは、そのお金を分配するのは、誰もがその恩恵を受けることができるような形で分配をしているのか。つまり、何を分配するのか、What というのが分配的平等です。どのように財を分配するのか。

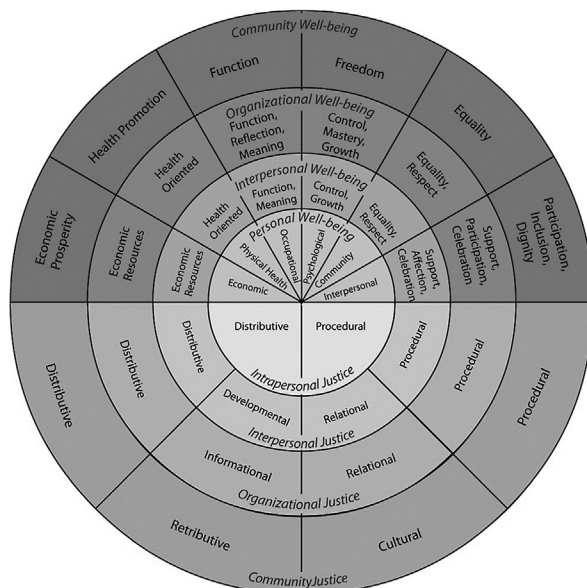
これは重要なことですけれども、手続き的な正義ということも同じように重要です。手続き的な正義というのは、どのように正義を実践するのか。いかにして、How です。どのように決定を行うのかということです。もし組織で仕事をしている、そして、その組織において、意思決定が下されるけれども、自分の意見が全く求められなかった、自分の意見は無視されているというような場合、あるいは社会の中で性差別がはびこっているような場合、そして、女性は意見を全く求められないというような場合、女性は社会的な意思決定に参画しないという場合には、意思決定から阻害されたと感じるでしょう。従って、この二通りの正義、両方を取り上げています。

パイのどのくらいの大きさの一切れ、What を受け取るのかということについても人々は敏感に反応しますし、意思決定に参画できているのかどうかということも重視しています。ここで分かるのは、この円の上の部分、これは良好状態のさまざまな分野を取り上げています。個人間、コミュニティ、心理、職業、肉体的、経済といった六つの分野です。

そして、コミュニティにおいては、分配的正義を人間は期待をするものです。例えば私があるお金を稼いだ。そして、それに際して、ある程度の貢献を行った。その場合には、一定の大きさのパイを受け取る権利があるというふうに考えるでしょう。一定のパイを受け取る権利があると考えただけではなくて、自分の関係において意思決定にも参画できるはずだと考えるでしょう。

妻が見たいと思う映画ばかりに行きたいというわけではありません。自分も映画を決めたいと思うこともあります。家族の意思決定で自分が決定するときもあってはいいではないかと思う。それは手続き的な正義です。

图 4



(注) 原図は、上半分が茶色、下半分が青色である。

正義の侵害、文化的な正義

この分配的正義と手続き的な正義を組み合わせる。そして、精神的な分野において、それを考えてみたいと思います。子どもに対する虐待、あるいは高齢者に対する虐待の問題があります。子どもに対しては、発達状態がまだ幼いので、意思決定に参画はできないので、虐待を受けるということがある。場合によっては、子どもが高齢の親を虐待する。お金を取ってしまう。あるいは親が子どもに対して性的な虐待をするといったような虐待が見られています。性的虐待の場合、成長の過程において虐待を受けているということで、分配的正義も、それから手続き的な正義も侵害されています。

組織の中でも同じことがあります。これは透明性が組織の中で欠如している場合です。決定をする際に自分が参加できない。そして、この研究によると、「透明性が欠如していると情報の不正義になる」と言っています。情報が、正義

がないと、従業員は関わりがなくなります。そうすると仕事を辞めることになります。

ご覧のように同じことがコミュニティのレベルでも起こることがあります。手続き的、分配的な正義、そして文化的な正義があります。文化的正義というのは、言語、人種、ジェンダーのバックグラウンドが何であろうと、あるいは性的な嗜好が何であろうと同じタイプの正義を誰とも同じように享受できるということです。

つまり、性別、あるいは人種的な背景のために、それが経験できないとき、そのために同じ資源へのアクセスが、そのために経験できない場合、あるいは相談されない、周辺に追いやられていると文化的な正義が不足しています。

その結果、上半分、つまりウェルネスの部分、良さの部分が、その犠牲となります。基本的な問題があるわけです。全てこの下半分、この円の青の部分で起こるものは、全てこの上の茶色い部分（上半分）にあるものに影響します（図4）。

経済的な不平等と健康・社会的問題

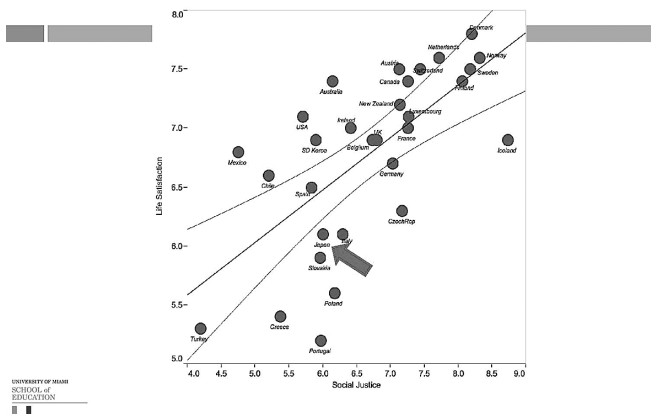
そこで、一つマクロレベルの例をご紹介します。こちらは、もし経済的な不平等がある場合、国にもっと問題があるということを表しております。例えば経済的な不平等が少ないとき、その国は、健康や社会的な問題が少ないということを表しております。これは健康と社会的問題の指数です。精神的な疾患、そして、信頼、犯罪、幼児の死亡率、寿命などを合わせております。それに基づいてインデックスを作っております。そして、日本、スウェーデン、ノルウェーなどは、非常に成績がいいということが分かります。

ここで矢印は、カナダ、オーストラリアとアメリカを指しています（図5）。これは私が住んだ経験のある国だからです。このグラフによると、私は、あまりいい判断をしていないということが言えます。というのは、私はカナダからオーストラリアに行って、それからアメリカに行ったからです。あまり健康と社会状態の記録がよくない方向に私は移動しております。

次にこの貧しさ、困窮状態というのは、どの国でも大事です。豊かな国で、例

図 5

The relationship between social justice and life satisfaction –
Di Martino & Prilleltensky, under review, *Social Justice Research*



例えばスウェーデンなどでも、教育水準の高い人は、幼児の死亡率が減っております。ですから、スウェーデンで福祉制度が充実していて、福祉政策もよく、この人間の開発指数が高いのに、博士号を持っている人のほうが、幼児の死亡率が低いわけです。他の教育水準の人に比べて。そこで他の人と、もっと教育水準の高い人と比較をすると主観的に違いを感じるわけです。そして、それがその人の人生に対する正義のレベルが影響されてしまいます。イギリスも同じです。

そして、ドイツの社会的正義の指数では、貧困の削減、そして、健康、福祉へのアクセス、教育へのアクセスで比較いたしました。このドイツの指数で見ると世界中の国を比較することができます。

水平部分が社会的正義です。そして、縦軸が人生の満足度、横軸が社会的正義です。ご覧のようにノルウェー、スウェーデン、デンマークは、成績が大変いいということが分かります。社会的正義が高く、そして、相対的に人生の満足度も高くなっています。

ここで興味深いことに日本は真ん中辺りに位置しています。社会的正義の政策はある程度見られますけれども、人生の満足度のレベルは、それほど高くあ

りません。私の仮説ですが、これは職場のストレスと関係あるかもしれませんし、また個人に対するストレスが大きい文化があるのかもしれません。一定の役割が期待されて、その役割は文化の中で決められているのかもしれません。厳密な期待があるのかもしれません。そして、厳しく人を判断してしまう。ですから、自分は文化的な期待に応えられていないと感じるのかもしれません。そのために人生の満足度のレベルが低くなってしまうのかもしれません。

心理的過程

ではここで、どういう社会プロセスが良好状態と公正の間の仲介をしているのかということですが、マタリング (mattering)、つまり「重要である」ということと関連があります。「重要である」というのは、私は人生で重要だと、自分は重要だ、大切だ、自分は違うということを感じることです。

これは、心理学で重要な構成概念です。この中に二つの重要な要素があります。自分には価値があると感じることと、価値を提供することです。価値があると感じるということは、自分は認められているということです。例えばある部屋に入ると、みんな自分に注目してくれる。自分は無視されていない。誰かであると認められている。このグループの、あるいは家族、社会で自分は無視されていないと感じるということです。これは「重要である」ということの半分です。もう半分は、価値を提供することです。私は、他の人に貢献しなければいけない。でないと、自分は本当にこの世界で重要だとは感じないからです。

そして、三つの価値を感じる方法があります。私の人間関係によって価値を感じる、自分の住んでいるコミュニティで価値があると感じる。そして、自分自身で自分に価値があると感じるということです。ここで価値があると自分で感じることができれば、自尊心から便宜をえられる。そして、友人や同僚、家族に価値を提供し、社会にも価値を提供できるのであれば、自分自身にも価値を加えているように感じるということです。

自分に価値があると感じられる、価値を加えるという源泉は、公正さと良好状態と関係があります。例えば自尊心、自己受容、そして、自己ケアは、気持

ちよく感じますが、公正さの側面でもあります。関係の中で自分は社会のサポートを感じたい。これはウェルネス（良さ）の一部ですけれども、同時に尊敬も感じたい。これは公正さの側面です。つまり、全てのこの図にある要素は、良好状態と公正さと関係があります。この二つが、この「重要である」ということに貢献しているわけです。

また「重要である」ということに対して脅威もあります。自分に価値があると感じることに脅威もあります。自分が無視されてしまうこともあるかもしれない。自分は周辺に追いやられていると感じることがあるかもしれません。

通常、他のグループ、あるいは、他の人がこの周辺で非常に過大評価されていると感じることがあるかもしれません。価値を提供することに脅威を感じる。これは自分に無力感を感じることから来ます。自分の人生で何か違うことをやろうと感じる。しかし、成功しない。その結果、無力感を感じる。これは、うつや他の心理的な問題と関係があります。

これは、人生で何か違うことをやろうとしようとするときよくあるんですが、家族、あるいは職場、あるいは政府に独裁者がいて、ものを何も買いたくない人がいるとします。そうすると、そういった独裁者がいるために無力感を感じるわけです。

最後にサル反応をご紹介します。サルが、自分が公平に扱われていないと感じたときの反応をご紹介します。簡単なビデオですが、フランスのある教授（Frans de Waal）の作ったものです。彼は霊長類学者で、サルの研究です。映像をご覧ください。

これは、公正さの研究です。有名な研究で、今もたくさん行われておりますが、これは10年前に行われました。オマキザルというサルで、最初の実験です。犬や鳥、チンパンジーでも、この研究はしたのですけれども、まず、このオマキザルで始めました。

2匹を隣同士に入れました。群れ行動をしている。中の2匹を取って、テストのおりに入れました。単純な仕事をさせます。それでキュウリをあげます。ご褒美に。隣同士にいるサルです。そして、25回も続けてくれました。キュウリ

は、ただの水じゃないかと思うんですけども、キュウリで彼は喜ぶんです。もう一方にブドウをあげると、このサルはスーパーの値段と好みが一致しているようで、ブドウのほうが好みようです。ブドウのほうがいいんです。それを一方にあげると両方で不公平感が発生しました。こういう実験をしました。

ビデオを撮って、今までこの実験をしたことのないサル2匹で、もっと反応が出ると思われるので、左側はキュウリを与えます。右側にはブドウをあげます。キュウリをもらうサルは、最初は、それでいいと思ってキュウリを食べます。ここで隣のサルはブドウをもらっているところを見てください。左側が石を人に渡すという作業をすると、キュウリをあげますね。食べます。もう一方の右側には石を渡してもらおうとブドウをあげます。それを隣のサルは見ているんです。その上でそのサルが石を与えると、またキュウリをあげます。(映像を視聴)

これ（左側のサルがキュウリを受け取ることを拒否して檻の外に投げつけた行動）はウォールストリートの抗議運動と同じですね。結論ですが、ここで何を申し上げたいかという、このサルの例ですが、これは世界中で起こっています。人同士の関係においても、組織の中でも、あるいはコミュニティの中でも起こっています。一定の人が、公平さが欠如していることを感じるわけです。なぜなら、何かを提供するけれども、自分が値するというものを代わりにもらっていないからです。

そして、公正さが欠如していると感じると、人間関係において、職場において、コミュニティにおいて、それを感じると、私たちは攻撃性を蓄積してしまいます。何らかの形で、それが爆発します。非常に制御できない悪い破壊的な方法で出てしまいます。

こういった攻撃への傾向を人間でもサルでも防止したいのであれば、関係や職場、あるいはコミュニティで分配的公正と手続き的な公正さのある社会をつくらなければなりません。ありがとうございました。